



子どもたちに平和な未来を手渡したい！ 教職員投票に、100名をこえる「戦争反対！」の声

●日本の平和、民主主義の危機です！

磯崎陽輔首相補佐官は、7月26日の講演で「法的安定性は関係ない」と発言をしました。時の政権が「情勢の変化」だと言え、憲法解釈をいくらでも変えることができるのだという、まさに憲法無視の発言です。

日本国憲法は、閣僚や国会議員が憲法を尊重し擁護する義務を定めるとともに、憲法に反する法律は「その効力を有しない」と定めています。政権中枢の一員でありながら、憲法の「法的安定性」はどうでもいいなどという磯崎氏のこの発言は、日本の立憲主義、民主主義を破壊する、大変な問題発言です。

私たちは、日本の平和を、民主主義を守るために、声をあげ続けていくことが大切です。

●教職員投票～釧路では10分会126名が参加（7月30日現在）

「戦争法案を許さない」との声を大きく広げていくために取り組んできた「全国教職員投票」について、全釧路教組分の取りまとめをしました。

全釧路では、7月30日現在、10分会126名が参加、全員から賛同を得ました。取り組んだ分会では、管理職も含めて多くの参加を得られた、多くの先生が記述欄にも意見を書してくれた等の手ごたえを感じているようです。

全教は、7月16日に、全国教職員投票の1次集約結果をマスコミに公表しました。7月15日までの投票数は34,869枚、賛同数は33,981枚。取り組んだ職場数は34都道府県2,559校にもものぼります。1次集約でこの人数ですから、最終的には大変な数の賛同の声が集まることと思います。

一次集約で集められた声は、7月24日の中央行動で議員要請に活用されました。その後集められた声も、全て国会、地方の議員要請に活用されます。政府は、この声に真摯に耳を傾けてほしいですね。

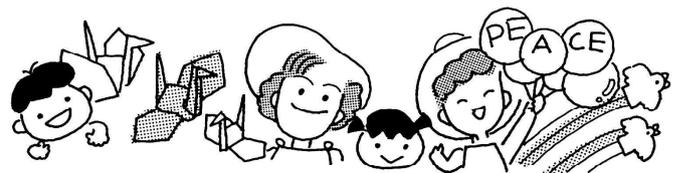


●「私のひとこと」欄に書かれたメッセージ

- ・せめあうことなくみとめあうことで子どもたちが育っているといいなと願いも込めて
- ・『専守防衛』外に向けていくのは反対です。子や孫には、武器を持たせたくないです。
- ・戦争に行かせるために子どもたちを育てているわけではありません。戦争絶対反対！
- ・子どもたちに安心できる未来を付くってあげたい。戦争反対!!

- ・地球規模で私たちの国を見た時に、「今のままで本当にいいのか？」と考えさせられることがある。安保の解釈は所詮アメリカとの関係優先。もっと日本として戦争にならない、しないような働きかけのできる強い国づくりをめざしてほしい。強くて優しい国づくりです。
- ・みんなで平和を求めていきたいですね。一人一人の心の中が平和なら、きっと平和な未来が作れるはず。
- ・憲法9条は大切にしてほしいと思います。
- ・安保法制、絶対に反対です。日本の宝である憲法9条を守り、子どもたちのために、平和な日本を手渡したい。民主主義の日本であり続けられるようがんばります。
- ・武力や暴力に頼らず、相互理解、信頼関係を育てることは、教師の大切な仕事です。
- ・憲法9条は絶対に改正しないで欲しいです。
- ・国民の理解が得られない、というより、国民に説明できない法案を無理矢理通すという、国民をバカにしたやり方は、絶対に認められません。
- ・一人が死んだら何人が悲しむか、真剣に考えてください。
- ・戦後70年、平和を必死に守り続けてきたこの国を戦争する国にすることは、絶対に認められない!

- ・安倍総理は怖い…。
- ・戦争は必要ないと思う。
- ・戦争のない国を…
- ・その通りだと思います。
- ・殺し、殺される戦争からは、何も生まれません。“壊す”だけです。戦争に使うお金があるのなら、未来を担う大切な子どもたちのために使って欲しい。
- ・平和な日常がなければ、教育どころではありません。平和な社会を、子どもたちのために保障してあげたいです。
- ・戦争によって得られるものは何もないですものね。
- ・戦わないで発展してきた国だ!
- ・安保をむすばないように、お願いします。
- ・若者の命を、子どもたちの平和な未来を、奪わないでください。国民の声に誠実に耳を傾けてください。
- ・だれも ころさない だれも ころさせない



▼「なんておもったら」(佐野美津男) ～ 表面だけを見て思い込むことを考え直す「学び」を

群読の教材としてもよく目にする詩です。「～は～だ」「なんておもったら/おおちがい」という反復が楽しいリズムを生み出しています。

この詩で一貫してくり返されていることは、「表面だけを見て思い込むことを考え直す発想」です。初めは「パンやさん」「ようふくやさん」と、他愛ない日常への子どもらしい見方から始まっていますが、次第に、深い、世の中の真実に、はっと気付かされます。

まさに、学ぶ意味がここにあると思うのです。見える世界の奥にあるものを想像し、発見し、見える世界を広げていく学びを重ねていくことで、世の中の矛盾や隠された真実をも見えるようになっていきます。

今、教室では、点数競争、学習規律、言語活動や道徳強化など、子どもたちが想像し、発見する、豊かで深い学びの創造がとても難しくなっています。真実を見られては困る者の思いがはたらいっているのでしょうか。

「積極的平和主義」「自衛隊派遣」「後方支援」など、言葉の言い換えによって作られたイメージの奥にある真実をしっかりに見極めていくことも、今はとても重要です。子どもたちにも、そんな力を育てたいと思います。民主社会の形成者としての世界観を育てたいと思います。

なんて おもったら
 佐野 美津男
 パンやさんは
 ほかほかのパンばかり たべている
 なんて おもったら
 おおちがい
 ようふくやさんは いつも
 あたらしいスポンをばく
 なんて おもったら
 おおちがい
 びょうきの かんごふさんは
 びょうきをしない
 なんて おもったら
 おおちがい
 マドロスさんは パイプくわえて
 カモメとあそんでばかりいる
 なんて おもったら
 おおちがい
 よっぱらいは
 なまけものでしょうがない
 なんて おもったら
 おおちがい
 へいたいさんは
 くにをまもってくれている
 なんて おもったら
 おおちがい
 このほかに
 へなんて おもったら
 おおちがい
 うんとある
 そしてすこしは
 ほんともある
 それをばくらは
 さがしてみよう